

第3回みどりの食料システム戦略に係る意見交換会 (生産者（露地野菜・果樹）)

日時：令和3年1月26日（火）10:00～11:30

場所：オンライン開催

参加者：別紙参照

【先方コメント概要】

- 機械と人の役割分担の明確化やスマート農機に適した圃場整備等を行うことが大切。その上で、本戦略で示されている各種技術を実現していくことが重要。
- 大規模化や機械の大型化・効率化により、環境よりも経済重視の作業形態となりつつあるが、持続可能な農業や暮らしを考えた中では、待ったなしの政策、戦略である。
- 環境に優しい農業を進めていくためには、消費者にもその価値を認識してもらうことが大切。 実需からの要望がそのまま生産者の取組の動機付けになる。
- 露地野菜では、化学農薬・化学肥料の削減について、将来的には5割削減も可能。
- 果樹では、化学農薬の3割削減、化学肥料の9割削減が可能。
- 学校給食で有機農産物を使用するなど、地域全体での取組や消費者の理解醸成を進めることで、2050年には耕地面積に占める有機農業の取組面積を2割まで拡大できるのではないか。
- 醸造用ブドウでは、化学農薬を減らすことは難しく感じる。交配による耐病性品種による農薬削減に期待が持てる。
- ネオニコチノイド系農薬の使用削減について、2050年目標では遅すぎではないか。
- 現状では我流で生産されている方も多いが、本戦略を実際に現

場で推進していく上では、地域ごとのマニュアルを作成し、普及センターの役割を明確化することが必要ではないか。

(以上)

(別紙)

第3回みどりの食料システム戦略に係る意見交換会
(生産者(露地野菜・果樹))
出席者一覧

(有) エーアンドエス

おおひら たかゆき
大平 貴之 代表取締役

サントリーワインインターナショナル(株)

わたなべ なおき
渡辺 直樹 シニアスペシャリスト

たなはし ひろし
棚橋 博史 専任部長

(有) 齋藤農園

さいとう しんいちろう
齋藤 真一郎 代表取締役

(株) ジェイエイフーズみやざき

かわぐち まさよし
川口 正剛 取締役業務部長

(有) 太陽ファーム

まきた こうしろう
牧田 幸司朗 取締役